# 生麦中だより

令和2年（2020）3月　11号

「成熟した職場には笑顔がある。」
http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/namamugi/

新学期スタートに向け、職員一同、準備をしています。
感染症拡大の終息を願いながら、
学校で、皆さんを待っています。
生麦中学校　職員一同

## 「言葉の力」 ～新学期を迎えるにあたり～

校長　山口　毅

私たちが今までに経験したことのない、感染症拡大防止のための一斉臨時休校。メール配信でもありましたように、生徒の健康・安全を第一に考え、昨日３月 24 日(火曜日)まで、休校を継続する形となりました。休校の実施にあたっては、準備期間が短いなか、生徒・保護者の皆様のご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

私たちも感染症対応への先の見えない不安と、生活面での不自由さの中、日常生活の安定を早く取り戻したい気持ちでいっぱいです。そこで４月新学期を迎えるにあたり、日常の安定をめざすために一緒に考えていきましょう。

まず、私たちは**「冷静で落ち着いた生活をしていきましょう。」** トイレットペーパーが不足するなど、SNS などでは間違った情報やデマが発信されています。デマや間違いに心を波立たせることなく、冷静になりましょう。また、今まで対応策を行ってきた経過から、感染症対策が完了したかのような感覚に惑わされてしまうことがないようにしていきましょう。手洗いを継続して行い、マスク等を利用して感染症拡大防止に粘り強く取り組みましょう。

次に、**「学習しましょう。」**家庭生活の中で、必ず学習に取り組む時間をつくってください。その時間で学校から出された課題や学年を振り返り自分の課題を確認して、学習してください。大切なことは、自分で行うことです。本を読み、考えを巡らせる素敵な時間を過ごすことも大切なことのひとつです。実行してください。

学習のことで分からないことや不安なことがあれば、学校に連絡をください。

私たちは、多くの「言葉」に囲まれて生活しています。休校で友だちと会話できなかったり、先生方の話を聞けなかったりしている状況では、日常生活の中で飛び込んでくる言葉が、本当に伝えようとしている言葉の意味と違う意味で伝わることが、あるといわれています。これは、人と向き合って話す言葉と、メールや SNS 上で文字として発せられる言葉との違いからくるのだそうです。

言葉は時に、人と向き合うことの大切さを教えてくれることがあるのかもしれません。

新学期、皆さんと元気な笑顔で言葉を交わすことを楽しみにしています。

## 卒業生から在校生への言葉

在校生のみなさんへ

１．２年生のみなさんとは、部活動や行事を通してたくさん関わってきましたね。

これまで私たちが先輩方の背中を追ってきたように、私たちもみなさんのお手本になれるよう努めてきましたが、３年生の姿はどのように映っていましたか。

私たちが良い思い出をつくってこられたのは、１．２年生のみなさんと反省や喜びを共有したり、意見を出してくれたりと３年生を支えてきてくれたからです。今まで私たちを信じてついてきてくれたこと、３年生一同、心から嬉しく思っています。

これからは、みなさんが生麦中学校を引っ張っていく立場になります。残りの中学校生活、日々丁寧に全力で悔いのないように過ごせるよう応援しています。

生徒会副会長　万行 彩香（３年４組）

## 卒業生へ伝えた言葉（校長式辞）

卒業証書授与式にて、校長が卒業生に伝えた言葉を一部省略した形でご紹介します。

～省略～

卒業証書授与式は中学校での学びの証となる、かけがえのない行事です。本来ならば、在校生、職員、そして何よりここまで、見守り、育ててくださった保護者の皆様とともに、それぞれの卒業生への思いを込めて、新たな一歩を祝うべきもの　と考えています。

しかしながら、世界レベルで新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組む今、僅かでも感染が懸念される状況を取り除くことは、私たち教職員の責務であると考えます。

出席いただくことはできませんでしたが、皆さんの卒業を祝う多くの皆様方に感謝し、一日でも早い 感染危機の終息を祈りましょう。

裏面あり→

改めて、235 名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。この 3 年間、皆さんの活躍のおかげで、生麦中学校は一段と活気のある、また、さらに多くの人に愛される学校になりました。創立以来７２年の歴史に、皆さんが残したこの 3 年間の足跡に対し、心より「敬意」を表し「讃辞」を贈ります。

ただいま一人ひとりに手渡した卒業証書は、中学校の全課程を修了した証明です。同時に 9 年間の義務教育を、修了した証でもあります。この長い間、君たちを今まで支えてくださった「ご両親・保護者の方」をはじめ、すべての方にまずは、感謝の気持ちを持ってください。

さて、令和元年度は、多くの出来事が私たちの周りでありました。時代は、「平成」から「令和」へと遷り(うつり)一人ひとりがより輝く時代となりました。ここ横浜では、ラクビーワールドカップが開催され、開催国の私たちは、「ONE TEAM」の言葉とともに世界から注目されました。

一方で、改めて自然災害の脅威を肌で感じた年でもありました。昨年の台風による災害では、本校でも周りの木々が倒れ、雨水が校舎に入りました。市内全域で、休校措置が取られたことは、記憶に新しいと思います。
この時も、皆さんの明るく元気で、前向きな姿勢が私たちのやる気を支えてくれました。

平成 23 年、日本を襲った東日本大震災から本日 3 月 11 日で 9 年を迎えます。
当時、君たちは、4 月から小学校に入学する時期でした。この国に生きる私たちは、この時の体験から「命」の大切さを知り、どのような生き方を、しなければならないかを学びました。特に皆さんは、修学旅行と道徳の中で「命の大切さ」を丁寧に学んできました。
「心の優しさ」と「意思の強さ」をいつまでも持ち続ける人であってほしいと願っています。

本日は、ここにいる皆さんと共に、震災でご不幸に見舞われた方々に哀悼の意を表するとともに、今なお、苦しむ方々にお見舞い申し上げます。

さて、今日の卒業は、「別れ」でありますが、「新たな出発」でもあります。
そのような中、「未来へ向かい」旅立とうとする皆さんに、私は次の二つのことを期待しています。

●一つめは、「夢」を持ち、人々の「幸せ」のために貢献し、あきらめない努力を続けてほしいということです。

勉強すること・学ぶことは、自分の興味を満たすためだけのものでなく、他者よりも優れていることを誇示するために　するものでも、ありません。自分で得た知識や技能は、「人を幸せにする」ために使い、「人を幸せにするため」に学び続けるのです。皆さんが取組んだ風歌祭合唱や体育祭・部活動での活躍は、どれほどの人を幸せにしてくれたことでしょう。

これからも、コミュニケーションを大切にして、「夢」を持ち、課題解決に向けて主体的に学び続け、新たな価値を生み出す努力を続けてください。

●二つめは、「心」を磨き続けてほしい　ということです。
アメリカの学者　ライン　ホールド　ニーバーは、次のような言葉を残しています。

「変えられないものを　受け入れる　心の静けさと、　変えられるものを変える　勇気と、その両者を見分ける　英知を　自分に与えてもらいたい」

起きてしまった出来事は、変えようがありません。
困ったときや悩んだときは、解決のための手立てや策を考えると思います。天候は変えられませんが、雨が降るなら傘を準備することができます。

「心の静けさ」は、何もできない状態から、人を「考える人」へと成長させてくれます。

「勇気」は、新たな一歩を踏む出す力となってくれます。
このままでは、良くない状況のとき、人は行動して、より良い方向に改善しようと取組みます。その助けとなるのが「勇気」です。
変えられるものを、変えるとき、自分が行動することによって、全てが動き出します。

「心の静けさ」と「勇気」を、いつ発揮すれば良いかを判断し、心に磨きをかけてくれるのが「英知」です。英知は、問題や課題、悩みや物事の本質を見通して、考えることができる知恵のことです。

「変えられないものを　受け入れる　心の静けさと、　変えられるものを変える　勇気と、その両者を見分ける　英知を　得られるよう　、「心」を磨き続けてほしいと願っています。

終わりに、出席いただくことが叶わなかった保護者の皆様には、これまでの精一杯の愛情を込めた、子育てのご努力に対して、敬意を表します。同時に、本校の教育活動へのご理解・ご協力に、改めて感謝申し上げ、心よりお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さん、これからも、「強く、正しく　しなやかに」生活をしてください。これからの世界をつくるのは皆さん自身です。進路先でも、そして社会に出ても、大いに学び、自分の世界を広げ、温かい心を持った素敵な人になってください。

努力を続け、夢を語り、諦めない人生を歩んでください。それが、君たちに望むことです。

君たちの前途に開ける（ひらける）未来に、期待と思いを馳せながら、わたくしの式辞といたします。

以上　一部省略した形での
言葉をご紹介いたしました。

←

【3 月、８組の生徒さんが
職員玄関に飾ってくれた、
ひな人形です】